

海の応援団

私たちに豊富な恵みを与えてくれる"海"。この連載では、海を守り育て、未来に引き継ぐ活動や、海を生かした地域活性化の取り組みを紹介します。今年山形県で全国豊かな海づくり大会が開催されます。この機会に海の大切さへ目を向けてみませんか。

VOL. 1 藻場再生の取り組み（小波渡地域藻場保全活動組織）

■問合せ／本所農山漁村振興課 ☎25 - 2111内線558

海には魚や貝、海藻など多くの水産動植物が生息しています。近年、その生育環境の保全・改善に向けた取り組みが全国各地で行われています。本市でも、油戸地区や堅苔沢地区、鼠ケ関地区での、海に流れ込む川の源流を生む森を豊かにするために植樹や下草刈りをする「魚の森づくり活動」をはじめ、漁業者や地域住民、行政等による様々な環境保全活動が実施されています。その中で、小波渡地域藻場保全活動組織の藻場再生の取り組みが、昨年の第35回全国豊かな海づくり大会で、環境大臣賞を受賞しました。

藻場とは海藻が群生する海の森のような場所のこと。魚介類の産卵・生育の場であることから「海のゆりかご」と呼ばれ、海水を浄化する機能もあります。ところが、小波渡地区沿岸では、海底が砂漠のようになってしまう「磯（いそ）焼け」と呼ばれる現象が発生。昭和59年に整備したアワビ増養殖場では20年以上も海藻が生えないという状況が続いていました。アワビの漁獲量も減少していき中、なんとかして藻場を再生させたいとの思いから、地区の浅海漁業者が中心となっ



代表の佐藤善四郎さん（写真左端）と構成員

て、平成21年に同組織を立ち上げました。

「磯焼けの発生原因も分からず、本当に手探りでした」と当時を振り返る代表の佐藤善四

郎さん。海藻の種となる「母藻」の設置、海藻を食べるウニ等の食害生物の除去、海藻を付着しやすくするための岩盤清掃の3つを取り組みの柱としましたが、1年目はほとんど成果が上がらなかったそうです。



母藻設置の様子

2年目以降は、母藻の設置と食害生物の除去に力点を置いて取り組みを展開します。母藻の設置では、県水産試験場や加茂水産高校の専門家から助言を受け、設置するタイミング等を工夫。母藻表面のぬめり具合で、受精した胞子の付着を確認しながら設置すると、海藻が岩盤に定着するようになりました。また、食害生物の除去は、海中のウニ等の一つひとつ捕獲する地道な作業。漁業者だけでなく、加茂水産高校の生徒にも協力してもらいました。平成22年以降に除去した食害生物は2万個を超えます。「作業の成果はもちろんだが、若い人との交流もできてよかった」と佐藤さんは話します。

取り組みの効果も順調に現れ、自然の循環の中で海藻が繁茂する環境が整い、藻場が回復してきました。「多くの人の協力を得て取り戻した藻場を守り、後世へと引き継いでいきたい」と佐藤さんは語ってくれました。

第36回全国豊かな海づくり大会
山形大会キャラクター

「もっけだのん」

大会本番まで
あと253日
《1月1日時点》



回 1月23日①・24日② 午前10時30分〜午後3時30分（寒鰯汁の販売は午後2時まで〈売り切れ次第終了〉） 場中町モール、中通り商店街、さかた海鮮市場、酒田駅前

■前売り券 700円 ■前売り券取扱い 酒田夢の倶楽、酒田商工会議所、マリン5清水屋、ト一屋（酒田市内全店）、ヤマザワ（同）等 酒田市内商店街連合会 ☎

酒田市 酒田日本海寒鰯まつり

場同館 閩庄内町立図書館 ☎0234・43・3039 他月曜日及び祝日休館

▼共通 閩午前9時〜午後6時（土曜・日曜日は午後5時まで）

▼Shounai Art Collection 2月6日①〜3月13日② 日①〜24日②

庄内町 内藤秀因水彩画記念館 特別展

▼庄内総合高校芸術展 1月9日①〜24日②

広域情報掲示板
くるくる
庄内